

# 名古屋市環境審議会 第 1 回 第 4 次名古屋市環境基本計画部会 主なご意見

第 4 次計画（策定）の考え方について
○総合計画や様々な戦略との連携を図りながら、チャレンジングではあるものの、実現可能なリアリティのある計画にしていく必要がある。
○SDGs をきっかけにして、色々な人が参加できるという視点は良い。1 つの取組が複合的な価値を持つということをきちんと PR すれば、実行される可能性が高くなる。
○学生など、若い人が活躍できる環境をつくることも大事である。
○SDGs を隠れ蓑にして政策を進めるという発想ではなく、名古屋市としてどんなまちを目指すのかを検討するべきである。
○サステナビリティで「世界に冠たる NAGOYA」を目指せると良い。
○中間報告では、意見が出やすい環境づくりをお願いしたい。
取組方針及び施策の展開について
○現行計画にある 11 の取組方針は良い。こうした方針の横のつながりをどのように作っていくのかがカギとなる。
○部局間の連携も重要で、限られた予算を上手くミックスすることで、効率的・効果的に取り組んでいくことができる。
○名古屋市は区毎に特色がある。特色を生かし、横につなげていくことも重要である。
○「包摂性」で言えば、やる気のない人をどう動かすのかというところに力点を置いた方が良い。
評価指標について
○環境に対する意識は全体として上がっており、何か特別なことをやっていないと、やっている気になれないのではないかと。アンケートの方法を今後考える必要がある。
○評価には連続性が必要であるが、測定方法は少し工夫しても良い。
○マルチベネフィットを評価することは難しい。
○計画策定時だけ市民アンケートやワークショップを行うのではなく、計画策定後も毎年行うことで、実効性を確保することが重要である。
具体的な取組について
○「レインガーデン」のような、心ときめくキーワードが出てくると良い。
○SDGs の市民参加ということを考えた際、市民農園の取組は効果的である。
○何かを調べようと思った時、簡単に調べられて、分かりやすく情報が得られるような環境を作っておくべきである。
○広報なごやに環境局のコーナーを設けてはどうか。
○行政から市民へ、ポジティブに情報発信をしたいなら、SNS も有効である。単に情報を載せるのではなく、市民のためになるような情報を発信する必要がある。
○協働を促進するためには、優良事例の募集・表彰も効果的である。また、行政と市民の協働だけでなく、行政間での協働も必要である。
○中小企業のほとんどは、環境保全の取組をしたくてもできないのが現状である。エコ事業所の認定も、あれもこれもやらないといけなく、何か 1 つに特化してやるというの也被考えられる。